研究所だより

（発行）土佐清水市教育研究所
二〇〇八年十二月一日
第二七七号
問い合わせ（八二）三〇一六

パラリンピック・・・

～その三～

ここ他にも、たくさんのことを知ることができ、考えさせられたけれ車椅子バスケットボールは、普段よく見かけている車椅子と違い、競技用の車椅子は、作られ方に工夫がされ、転倒防止のためにタイヤが斜めに備え付けられている車椅子は、小さな補助輪がついている車椅子は、用途に応じて前方へ足を伸ばせるようにされている車椅子は、三〇万円以上もする高価な特別仕様の車椅子です。

こんなに負担がかかるのに、健常者と同じ道具を使わなければならないとは思ってもみませんでした。

そもそも、障がい者が社会に出て仕事をしようとすれば、維持費や通勤費などの経済的な負担を強いられる場合が多いのです。

仕事に関する技術を身に付けるために、県外の遠征に参加したり、海外の代表選手に選ばれるなど、上位を目指すためには、日々の厳しい練習に耐えなければなりません。

こうやって関わってこなかったら、きっと知らないままでいたことでしょう。テレビで見たり、机上の勉強だけではわからないことがあるのではないでしょうか。本物に出会い、ふれ合うことの大切さを車椅子バスケットボールを通して教えてもらいました。

～次号へ続く

（文責・山﨑）

はや十二月・・・

ついこの間新任の挨拶をしたと思っていたら、早くも十二月になってしまいました。時のたつ速さを感じる毎日です。

それぞれの職場で、成績処理や、学級のまとめなど何かと多用なことと思います。気候の変化も激しいこの頃、体調管理にも十分気をつけてください。

もうひとふんばりです、ともに頑張りましょう。

各部会でのまとめをお願いします。

市教研各部会の総括教研をお願いします。一月中には開催をしていただきたいと思います。

「清水の教育」への原稿もよろしくお願いします。